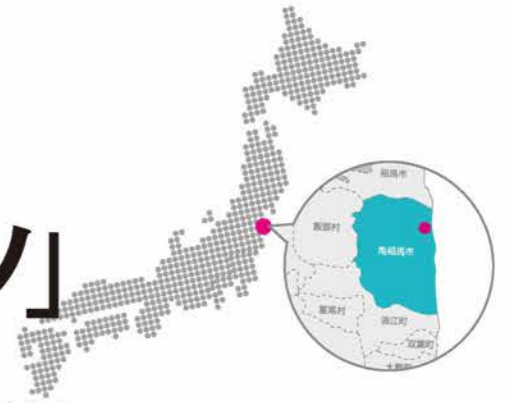




創業から40周年。 南相馬の職人たちがつくる「ウェットスーツ」



40年変わらない南相馬のウェットスーツづくり

南相馬市では古くから服の製造業が多くあり、高い縫製技術で知られてきました。「ZEROONE」のウェットスーツも40年続く職人の縫製技術ももちいて一着一着丁寧に縫製を行っています。抜群の着心地と水の侵入を防ぐつくりはジャパンクオリティとして世界に誇る技術です。



お客様の採寸をもとに描いてきたパターンの数は1万枚以上。オーダーメイドのウェットスーツ。

ウェットスーツをつくり始めたきっかけはなんですか？

20歳のとき、サーフィン始めてウェットスーツ工場へ直接オーダーする為に訪れたことがきっかけでした。工場のSTAFF募集の張り紙を見て即決。そこから1枚のウェットスーツをつくるための切る、貼る、縫うの技術を職人の先輩から学び、全ての技術を習得後ウェットスーツのパターンづくりを始めました。

パターンづくりへの想いはなんですか？

ウェットスーツづくりの上で一番基礎となる箇所と思っています。ベースはお客様の採寸データですが今までパターンをつくってきた知識をもとに「これしかない!」と思うラインを導いています。

最も大切にしていることはなんですか？

オーダーされた人が着用した時のフィット感です。採寸頂いた数字を読みながら頭の中にイメージを描いています。採寸箇所は30箇所以上ある為、細かな数字がベースデータになっていますが、人によっては部分ごとに大きさが異なる為、どういったラインを描くことがその人にとって最高にフィットするウェットスーツになるのか、一枚一枚考えながらパターンづくりに取り組んでいます。



パタンナー/木下登

切る、貼る、縫うの工程を一人ひとりの職人が丁寧に。着心地の良さを考えて仕上げるウェットスーツ。

切る

1万人以上のパターンを作ってきた職人の作る型紙。手首から腕、肩の幅まで全てのオーダーサイズを元に、身体の部分ごとに合ったパーツラインを描きます。時にはオーダーサイズに丸みをだしたり、ラインを深く切り出したりと職人の知恵と経験によって工夫を施しています。型通りにカットして成型したウェットスーツは驚くほど体形にフィットしたつくり。



貼る

型紙通りに切り抜いたパーツの小口に糊を塗りつけます。しっかり糊づけと圧着することで水の侵入を防ぎ、壊れにくいウェットスーツを作ります。



縫う

高度な技術が必要なマシン縫い作業。ウェットスーツに水が入らないよう、表面だけを丁寧にすくい縫い。端部分はしっかり閉止めて仕上げます。

